

みなさんが前回登校してから、3週間が経ちました。ふだんとは異なる生活の中で、戸惑いながらも、日々学校から出された課題や自分なりに取り組むことを見つけてがんばってきた人が多かったのではないかと思います。先生方もふだんとは違う学年末、みなさんに対して何ができるのかを模索しつづけた毎日でした。学年末考査が実施できなかつた中で、公正に、そしてみなさんのがんばりを最大限評価できるよう成績評価をし、みなさんが登校できない間の課題を送り、メールなどを通してみなさんの状況を確認したりする中で過ごした3週間でした。

日本国内では、この期間、ほとんどの小中高校が休校になりました。春休みや年度始めのさまざまな部活動の大会も次々に中止や延期の発表がされました。こうしたことは、生徒のみなさんにとっても先生方にとっても、また各大会に関わる人にとってもとても残念なことでした。ただ、こうした取り組みの効果もあつてか、国内におけるウィルス感染者は徐々に増加してはいるものの、爆発的な拡大に至っていないことは「幸い」と言ってもよいでしょう。一方で、この不安定で非日常的な状況がいつ終わるのか、という点については残念ながらまだ先が見通せないことも事実です。

日々、世界の情勢も変わっています。3週間前は、日本を含むアジア圏が新型コロナウイルス拡大の中心と見られていましたが、現在はヨーロッパの状況がより深刻化しています。3週間前に比べ、多くの国々が国境封鎖や渡航禁止という措置を始めてもいます。まさに人類が新しい見えないウィルスとの全面的な戦いをしている只中にいるということだと思います。こうした中で、私たちが今、すべきことは何なのでしょう。

みなさんに伝えたい三つのこと

前回の登校日、放送朝礼の中で、「与えてもらった課題をやればいい」のではなく、自分で自分の課題を見出しながら勉強をしよう、とお話ししました。改めてみなさんに、最初にお話したいと思うのはこの点です。

多くのみなさんは、自分なりの課題意識をもってこの3週間、がんばったのではないかと思います。が、同時に、とても苦しい思いをした人がほとんどだったかもしれません。3週間の自宅学習は、たとえば夏休みから比べればずっと短い期間です。でも、ふだんの夏休みであれば夏期講習があり、部活動があり、文化祭の準備があり、そこには「日常の学校生活」があります。学校に来れば、クラスの友だちや先生方にいつでも会えました。長期休みはあまり登校しない、という人もいるかもしれませんが、それも「自分で選んだこと」です。選択の余地なく、「家にいなければならない」というのはまったく異なります。こうした通常の休みと異なる3週間の間に「がんばろう」という気持ちを抱きながらも、それをなかなか「保ちつづけられなかった」という人も少なくないかもしれません。それはある意味で、仕方のない面もあります。

でも、今日の後、次にみなさんが登校するのは4月7日、また2週間半の春休みに入ることになります。この間をどう過ごすか、それは進級していく上でほんとうに大切になります。ぜひ、この2週間ちょっとの間に「どんな力をつけて、上級生になるか」、それを改めてイメージしてほしいと思います。「目標を持って過ごす」と言ってもよいかもしれません。ふだん苦手だった漢字の練習を徹底して取り組み、「漢字が得意な自分」になる。新学期開始間もなくあるテストに向けて、「満点」を狙うぐらいに徹底した取り組みをする。「目標」は、勉強だけに限りません。ふだん、なかなかまとめて本を読む時間がない人は、良い本を徹底して読みこむ、といったことも素敵なことです。「いつもの春休み」でないことは残念なことですが、それを逆にプラスに変えるような、そんな2週間半をめざしてください。もちろん、学年ごとの状況に応じて、新たな課題や春休み中の連絡のやり取りなど先生方も可能な限りのバックアップはします。この点についてはこの後、担任の先生からのお話にあります。

二つめは、もう一度「通常の春休みでないことの意味」を考えてほしいということです。

今回の新型コロナウイルスは、みなさんのような若い人が感染しても、あまり重症にならない場合が多いと言わ

れています。一方で「高齢の方」や「持病のある方」は重症化しやすいとも言われます。若い人は、感染しても症状が出ないため、重症化しやすい人に気がつかないうちにうつしてしまう危険があるという心配も指摘されています。また、「10代の若い人」であっても、中国のデータでは0.2%の致死率があるとされています。「重症にならない場合が多い」とは言っても、「重症化する人が0」ではないのです。こうしたことをふまえながら、「小中高校は基本的に春休みの活動を控える」のは、みなさんを守るとともに、重症化しやすい人も守る、さまざまな世代が協力しあってこのウィルスを抑え込むための期間なのだ、ということを変更して確認しましょう。だからこそ、不要不急の外出は避けることです。手洗い、可能な範囲でのマスク着用など、一人ひとりができること、意識的な行動をすることを通して「自分」を守り、「他者」を守ってほしいと思います。

最後に、正しい情報を見極める目を、自分の中に育ててほしいということをお伝えします。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、真偽不明の、あるいは明らかなデマの情報や噂が、世間やSNS等に出回っています。感染した方やその方を診察した医院などがいわれのない中傷を受けているという話も聞きます。日本国内だけでなく、世界的に見られる現象です。国によっては、アジア系の人、まるでコロナウィルス感染源のような扱いをされ、ヘイトクライムにあたり、暴行されたりしているという報道もあります。

今回の感染症拡大のような厳しい状況の中でこそ、私たちは正しい情報を見極める目を、自らの中に育まなくてはなりません。

私たち人類が今日のように発展したのは「噂話ができるようになったからだ」と言う人がいます。つまり、「目の前のこと」を言葉にするだけでなく、「噂話」のように「今、目の前にいない人、目の前にないこと」を認識して話せるようになり、共有できるようになったことによって、人類は「理解しあえる単位」が大きくなり、飛躍的に発展した、ということなのですね。でも、これはある意味「両刃の剣」です。良く使えば、目の前にない情報（今回のコロナウィルスにどう対処するか、もそうですね）を正しく共有できることにもつながりますが、悪い場合には間違った情報を誰もが信じてしまうことにもつながりかねません。現在のコロナウィルスをめぐる厳しい状況は、まさに私たち人類が試されてさえいるのかもしれない。きちんと正しい情報を吟味し、選び、行動していく力を身につけていきましょう。

新年度に向けて

次にみなさんが登校するのは4月7日（火）です。春休みは、残念ながらまだ部活動などができる段階にはありません。

4月7日は平日のラッシュを避けるために、9時30分を登校時間とします。この日も、始業式などは放送で行う予定です。そしてその後も当面の間、まず「授業の再開」を最優先します。4月9日（木）以降は9時25分登校で、45分の短縮授業、原則「放課後活動なし」という形で新年度をスタートする予定です。ただし、これもあくまで現時点での予定です。3月19日に「専門家会議」の発表がありました。その中では地域の状況によって、学校生活の再スタートは異なる、という方向性が示されました。現在、横浜市で大きな感染拡大は見られません。ですが、今後状況が変わる可能性もありますし、神奈川学園に通うみなさんは、横浜市以上に広域から通ってきていることなどをふまえながら、必要な場面場面で判断をし、みなさんにお示ししていきたいと思います。

4月以降、国内は、そして世界がどうなっているかはまだ見通せません。いわゆる「普通の日常」が帰ってくるのは、もう少し先になるのかもしれない。「先を見通せないこと」は苦しいものですが、それでも「現在、できること」を意識し、見ずえながら、毎日を歩んでいきましょう。そんな毎日を積み重ねた後、「日常」が戻ったときにふと、「あれ？こんなに自分は成長していたんだ」と気づけるとすれば、それはとても素敵なことだと思うのです。

では、4月、また元気な顔でお会いしましょう。